

内容

小論文をどこで学んでも同じ？ 4
大手なら大丈夫？ 6
インフルエンサーなら大丈夫？ 7
学校法人の教員なら大丈夫？ 8
レベルは高くなくても、合格水準に達した人に教えてもらえば大丈夫？ 10
ネット情報なら大丈夫？ 13
合格報告があるなら大丈夫？ 14
テーマ型ネタ知識はキクのか？ 15
論文セミナーはキクのか？ 15
論文の正しさとは？ 26
〈小論文対策についての問題点〉 36
〈あなたの損失〉 39
今からでは間に合わない？ 40

〈解決策の概要〉 41
〈時間が無いと考える人へ〉 59
牛山のチェックが入れば鬼に金棒？ 60
多くの人は SNS から選べない 73
情報があるだけでは技術は向上しない 74
小論文面接だけではない・学習技術も同じ 75
そもそも論を言うと、学習方法が一番キク 76
まずは勉強なんかするな！？ 83
英語ができるようになれば勉強が得意と思える 86
ちょっと教えてもらうことと、中核を教えてもらうことは同じようで全く異なる 89
思考力がまずは大切 92
モチベーションコントロールすら思考力？ 94
小論文がとにかく強い塾 97
それだけではない 102
ちゃんと速読もやる（希望者のみ） 102
英語と小論文が得意になると、完全に慶應大学が射程に入る 104
環境がそろうから成功するのではない GACT の言 115
何が問題なのか 116
解決策のご提案（キーは学習技術・小論文・面接） 117
サービスの詳細 122
当塾の講師の簡単な経歴（牛山　恭範 Yasunori Ushiyama） 126
教育指導実績 133
牛山執筆既刊図書のご案内 136

プライベートの紹介 147
教育理念 148
〈価格〉 150
追伸 158

こんにちは。学校法人「小論文」・「面接」・「書類作成」教員をしています。
慶應進学専門塾慶應クラス代表の牛山恭範（うしやまやすのり）です。





写真：小論文外部講師活動。（専門学校でも小論文講師として活動。※大学に準ずる高等教育機関での小論文講師活動。）

小論文をどこで学んでも同じ？

小論文なんて、どこで学んでも同じさ・・・そんな風にあなたが考えているなら、以下の内容をチェックしてみてください。

形式を守れない学生は、知性が決定的に欠落している・・・つまり、仮に全国１位でも優秀なわけがない。そのために小論文は用意されている。

これが大学の洗礼です。

小論文は、このような評価につながるから恐ろしいのです。

きちんと学ぶべきです。

大学の学問は形式主義。つまり別名正解主義でもあります。

正解ではない文章は評価できない。
それを学ぼうとしないのも評価できない。

論文をなめているのも評価できない。
正解を書こうとしない態度は、学生の態度として望ましくない。
知性が感じられない・・・

このようになってしまいます。

大手なら大丈夫？

⇒小論文は誰でも教えることができる。合格数は、集客宣伝で積みあがる。合格率は嘘が多い。

つまり、大手の場合大丈夫ではないとまでは言いませんが、小論文がハイレベルではない以上、より一層安定的に合格を目指すならあまり選択すべきではないと言えると思います。

小論文指導のレベルがハイレベルとは、講師が点数を取れる、教えて実績がある、伸び幅が大きい、上位の成績となっている、講師がトップスクールで学んでいる、研究を講師が理解している。研究した末の論文で合格した実績がある、講師の点数を公開できるということです。

インフルエンサーなら大丈夫？

⇒インフルエンサーはもっと危険だと思われます。例えば、単に合格するだけなら小論文は60点でいい。しかし、指導者が60点で満足できるでしょうか。

まして、学部の試験はカンタン試験。カンタン試験に合格したので指導力があります・・・は通用しません。

とてもではありませんが、ユーチューバーやティックトッカーは、大学受験の小論文講師としては、個人的にはお勧めできません。

レベルが高い証明が無い以上、これらの発言のすべてについて、私ならば、信用できません。まず顔写真、フルネーム、名前入りの点数を公開した上で、どの大学で誰に論文を学んだのか書くべきだと個人的には考えます。研究系大学では、厳しい論文に対する要求水準が存在します。

学校法人の教員なら大丈夫？

学校の先生を悪く言うつもりはまったくありませんが、学校の先生は論文指導のプロではありません。

また学校の先生が、大学教員のライセンスを持

っているような博士課程満期単位取得者を攻撃するのも間違っているし、博士号取得者を批判するのも間違っています。

海外では、〇〇博士と尊敬の念を示します。
当然です。まったくライセンスとして格上だからです。

つまり、学校の教員が博士号満期単位取得者や博士号取得者を批判するのは、

理学療法士や看護師が医師を医療関係者としてまったくだめと否定するようなものであり、

行政書士や司法書士が弁護士や裁判官をダメだと否定しているようなものです。

百歩譲って意見が間違いではないケースも存在するかもしれませんが、まずライセンスとってねと思われてしまうでしょう。

ちなみに私は学校法人の教員も何度か経験しています。高校生のレベルではなく、学校法では、短大に該当するような教育機関です。

レベルは高くなくても、合格水準に達した人に教えてもらえば大丈夫？

この考えは妥当ではありません。なぜならば、成績を少し引き上げてもらうのと大幅に引き上げてもらうのでは、大幅に引き上げてもらう方が、あなたの合格確率は高まるからです。

そもそも、大丈夫か大丈夫ではないかと考えることもあまりよくありません。

その考えでいくと、小論文はだいたい大丈夫で

はない科目なのです。どういうことでしょう。大学教員から見ると、どの受験生が書いた文章もツッコミどころ満載で、点数が低いということです。

その意味で大丈夫な答案などほとんどなく、単に上からましな学生をとっているだけです。

それでも受験生の側は大丈夫かどうかを気にしているというわけです。この時点でずれています。

きちんとやればトップを狙える科目。それが小論文なのです。

ではどう考えればいいのでしょうか。何がキクのかと考えましょう。

小論文の成績を上げたい。何がキクのか。

多くの学生はここで、ほとんど効果が無いことをやってしまいます。

そもそも、一般的な塾は、小論文の点数を上げることもあれば、下げることもあります。

下げる？そんなわけがないとあなたは思われるかもしれませんが、普通のことです。

なぜならば、学部卒の人が書いた論文は一般的に間違いだらけだからです。つまり学部という場所がそもそも、大学におけるもっとも下位の教育過程なのです。

従って、学部卒の人が論文について間違った認識、知識を持っていることは非常に多いのです。

そのため、点数が下がることを教えてしまうことがよくあります。

ネット情報なら大丈夫？

ネット情報は等質ではありません。一方の情報は点数が９割の人、一方の情報は点数が２割の人。

あなたはどちらを重視しますか。

ところが、この点数２割の情報にまどわされて判断がメタメタになる人が昨今続出。

ネット時代だから、判断基準が無くなるともう判断がメタメタで、何も成果を出せなくなります。

９割取れる人の意見が正しいと強い推定が本来は働くのです。

合格報告があるなら大丈夫？

集客して宣伝していればどんな学校でも合格実績は伸びます。

極端な話詐欺の会社でも、生徒を集めれば合格者は出ます。

何も教えなくても合格者は出ます。

だから悪質な経営を行う企業でも合格実績は増えるのです。

このことを知らない消費者は、合格実績が多いので安心できると錯覚するか強く思い込んでいます。

つまり、悪循環なのです。

テーマ型ネタ知識はキクのか？

あまりききません。また、これで点数を落とす学生も多いのです。なぜならば、作文試験と勘違いして、ネタを仕込み、論点がずれるからです。論文対策の初歩的なミスです。ここを理解させてもらうように、指導を受ける必要があるのですが、テーマ型で知識を詰め込む子は最初からずれています。

論文セミナーはキクのか？

論文セミナーは、受講の招待キップ。つまり、点数を上げることが目的ではなく、単なる無料お試しでしょう。無料お試しが、効果があるのかと言えば、あまりないと言えるでしょう。な

ぜなら、お試ししているだけだからです。私も点数を上げることはすぐにできますが、それだったら本でやってくれということなのです。

そもそも論文ってそんなに浅い科目ではない。すべての科目の中でダントツに深いのですよ？当たり前。考えてみればすぐに分かる。知識は詰め込んで吐き出せばいい。しかし思考に正解はない。哲学的な問いまで踏み込むこともある。例えばアダム・スミスの道徳感情論はこれだけで５００ページ以上。これで、道徳について何か分かるわけでもない。もしもあなたが道徳について学ぶなら、ニコマコス倫理学、カント、その他の哲学者の著作なども読む必要が出てくるでしょう。しかしそれでも正解はない。しかも、全部読むのは当たり前と大学からは思われています。その上で意味のある問いを学問的に発見することまで大学では求められる。だから一つの問いで人生が終わるのです。

手っ取り早く点数を上げるテクニックもある。

でもそれとこれは別。

本来大学の単位は、全部で 16 回などの講義の受講でもらえます。しかし、問題解決思考の科目は、年間通じて学ぶシステムを牛山が通った大学院では採用。ずっと学んでそれでも誰も見につかない。それが思考技術。

深淵なのです。

マッキンゼーという世界一のコンサルファームの元コンサルが教えてこうなのです。

ましてや予備校？塾？

その学校が教える内容とは？誰が講師？
いかなるキャリアでどのような機関で何を経験して何を学び、どのような体系的知識があって何を教えているのか？

あなたは考えたことがありますか？

求人内容を見てください。講師募集。時給5000円。

それがあなたが学ぶ内容。すべてを物語っています。

論文セミナーがキクかどうかではなく、誰が教えているのか、それが問題。

極端な話。あなたも明日から小論文のセンセイになれます。

塾や予備校があなたを雇えばあなたはセンセイ。

何を学生に教えますか？YouTubeで調べるの？書店に行く？

それと同じことが講師にも求められています。

講師の力量。どの大学で学び、どの先生に指導を受け、どのような学派に属し、何を学んだのか。どれだけ本を読み、どれだけ教えて、どれだけうまくいかない経験をして、どれだけ反省し、どれだけ考えたのか。どれだけ思考と向き合い、どれだけ思考術の本を読み、それ以外の様々な分野の本を読み、どれだけ研究したのか。自分がどれだけかけて、どれだけ真剣に学ぼうとして、どれだけ動いたのか、どれだけノートを取り、どれだけ小論文試験の対策をして、どれだけ知識を入れて、その知識を速読で読み、どれだけ問題意識と知識を熟成させたのか、どれだけ小論文研究を行い、どれだけの本を上梓したのか。どれだけ教育現場で経験を積み、どれだけ教えたのか。自分がどれだけ点数を取り、学生にどれだけ点数を取らせたのか。

それがすべて。

真剣勝負。

机上の空論ではない。

空理空論もいらない。

カラッポの内容を教えてもらうと、あなたの頭の中もカラッポとなります。

今例えば死刑制度の存置問題について問われて、あなたはどう考えますか？

何が最初に頭に浮かぶ？思考原理は、何が重要判断基準？なぜそれを考える？どうすれば妥当な結論に至る？説得力を持たせるには？説得力の要素とは？月並みではない発想とは？どこが目新しいの？あなたの考えのオリジナルティーは？新規性はどこにある？何が発見なの？どのように研究にいかせそうなの？

なにもわかりません。

・・・ということだと、それは大学教員に必ず

伝わる。

ネタ本読んだな。からっぽだな。ワシもこのネタ本は読ませてもらったよ。

そのまま書いたな。

愚かな・・・・

自分で考えることすらしないとはな・・・

うちは研究系大学だぞ。

このような若者は真っ先に落としたい。
そもそも無礼だとも思わないのか。

そんな風に思われないって、本当に思いますか？

なぜ人の意見をそのまま書いた？

１ミリも脳みそを使わないこと、問題に対する敬意は？

大学はシャレで聞いていると思いましたか？
とりあえず聞いているだけで、本当はどうでもいいと？

ケンブリッジ大学の医学部では、開口一番、大学教授が、「細胞はなぜ死ぬのかね？」だって。

ネタを仕入れてきた学生を落とす質問。教科書にもどこにも書いていない。

なぜ、あなたは、知性を試す小論文試験をなめてしまったのか？

大人がそういったから？考えなくてもいいよって？

先輩がそういったから？

合格者がそう述べているのをネットで見つけてしまいましたか？

ちゃんとしているのはどちらですか？

ちゃんと聞かれたことに応えること？

私のお師匠さんの大前研一先生は、ＭＩＴという世界一の大学の博士課程で博士号を取得した。大学教員に研究室に呼ばれた。「これについて君はどう考えるのかね？」大前研一先生は、当時「図書館で調べてきます」と述べた。

すると教授は答えた。

「ここにチョークがある。ここに黒板がある。ここに書いて考えてみなさい。」

ＭＩＴの教授は正解を述べることよりも、自分の頭で考えることの大切さを教えたかったんだよ。

「自分の目で見て、自分の頭で考えなさい。」
私は、大学院の入学式の日にこの言葉を大前研一学長から教わりました。

そして今、自分の生徒に教えています。

いつのころからか始まった暗記教育。私たちは暗記するとほめられた。

あたまがいいって。
大人もほめたんだよね。

でもね、大学ではほめられない。
たくさん暗記しましたね・・・なんだ。

それは当たり前と思われている。
そして、

別に覚えていなくても対処できるならそれでよいとも思われています。

大学は研究機関、

実務は当たり前。研究があるから大学に価値がある。そうでなければ専門学校卒でどうぞってことでもある。
研究においては、大事なポイントがある。

それを軽んじる若者もいます。
研究系大学で大学教員を否定するかのような考え方です。

いかに考えてもあなたの自由です。
しかし、大学教員の存在意義を根本から否定するような態度で、はたして十分にあなたの知性は評価されるでしょうか。

非常に難しいと言わざるをえません。

このように、小論文という科目は、小論文の勉強以前に何が大切で何が大切ではないのかを知らなければ、高い点数となりにくい科目です。

論文の正しさとは？

小論文に関しては、

大学教授が格上で、
予備校は格下と言えます。

点数を取らせるから・・・
ではなく、厳格な形式主義であり、小論文試験なのです。

これより小論文試験をはじめます・・・
とはそういうことです。

大学における学問をやってくださいということ

です。

だからこそ、小論文講師は、博士課程で学び、トレーニングを受けていることが大切です。

博士課程満期単位取得や博士号は大学教員のライセンスだからです。

医師が医師として活動するのに医師のライセンスが必要なように、本来論文指導には、ライセンスが必要なのです。

そのため、大学教員の採用条件として、満期単位取得か博士号が要求されているというわけです。

また、大学教授がダメという書き方はダメです。

YouTube の学びではありません。

フォロワー数の価値は 0 に近いと言えます。
SNS でバズったかも価値は 0 に近いと言えます。

なぜでしょうか。

ネットは素人メディア
感化されるのも素人

つまり、素人発信で素人が感化されているのが、今のネット情報化社会なのです。

学術的なトレーニングを受け、学術を理解し、学術を実践し、学会発表し、論文を書き、ジャーナルに投稿し、合格をいただき、論文を掲載し、国際会議に出席し、英語で発表し、英語で論文を書き、英語で投稿する。そして、海外でも合格をいただき、論文を掲載する。

この一連のプロセスは非常に厳しく、時には合格率 5%のジャーナルもあります。

こうやって何をやっていいのか、どのように考える方がいいのか、どのように考えるのか、どのように準備するのか、どのように進めるのかを知ることが大切です。

つまり、多くの若者がつまづいている（気づかずにつまづいている）ポイントは、人物に対する値踏み方法です。

SNS でフォロワー数が多いと大丈夫。
会社の規模が大きいと大丈夫。
お金がたくさんあると大丈夫。

これらは大学教員から見た場合、どれも少しもまったく大丈夫ではありません。

大学院で学んでいるから大丈夫。（な推定が働く）
大学院博士課程で正規の論文トレーニングを受けているから大丈夫。（な推定が働く）

学会発表しているから大丈夫。（な推定が働く）
ジャーナル掲載しているから大丈夫。（な推定が働く）
この人が学んだ先生は一流なので大丈夫。（な推定が働く）
まともな大学院あるいは、研究系大学院、あるいは、世界的にもトップスクールなので大丈夫（な推定が働く）

これが大学教員が人を論文教育に関して値踏みする際の基準です。

検定試験は何かの冗談のようにしか思われないかもしれないし、学生の模試ですら何かの目安の一つにしか数えられないでしょう。全国模試で１番でも（ふーん）と思われると思います。

つまり、何も響いていない。
2000 人くらいいて、１番でした。（ふーん）

という感じです。

だから何なの？
子供の集まりだったんだろ？
研究じゃないだろ。
作文的試験だよね？
模試？？
小論文？
何の話？

という感覚だと思われます。

ましてや、
進学校の教員でした。
とか、
インターネットの掲示板
とか、
SNS の意見
とか、

大学教員は、そういうことを言う人に関して

は、何も言わずにスルーするか、心の中でちゃんとやれと思うでしょう。

つまり、大学においては、正規の研究、正規の論文教育以外は、なんでもないということです。

第一に研究であり、
第二に研究なのです。

ちゃんとやれというのは、きちんと作法・マナーにそって、正しく書けということです。

それができて初めて（しっかり考えました）というのは分かる。しかし、それができていなくて、考えたもヘチマもないのです。

あなたが、どの塾がいいのですか？
とか
あなたが、どの予備校がいいのですか？

と考える際に、ほとんど見落としている絶対的基準の一つが、博士課程で講師がきちんと学術的トレーニングを受けて、論文の書き方がわかっているということなのです。（一定の水準にある）

無論、このようなことは、試験本来の趣旨と完全に合致した受験用配布資料に記載できることではないので、書かれていないことなのですが、大学の内規などに書かれていない暗黙の了解事項をどれだけ知っているかで、実は大きな差がついてしまっています。

もう一度あなたの合格に大きな関係があることなので書きますと、

内規などにも書かれない暗黙の了解事項が大学には存在するということです。

ここが分かっているか、分かっていないかで、

点数に天地の差が出てきます。

ちなみに、学問的な暗黙の了解については、通常博士課程で、もまれた人物ならだいたいわかっていることが多いと思われます。

またこの手の情報は師弟関係の中で、自然と育まれる感覚でもあるので、なかなか記述された文言として表に出てきません。

言い替えると、書くまでもないことでしょ？と思われていることを、どれだけ厳格かつ厳密にできているかということでもあります。例えば技術的な問題。論理の一貫性について、一定の水準にあるかどうかは、世界の上位ジャーナルに掲載されたかどうかで、強く推定できます。

このようにして、大学教員は、研究者を値踏みしていきます。

この人は大丈夫か、ちゃんとやれる人なのか、

どういう実績があるのかで判断するということです。

本を読んで、いいとかわるいとか、こんな感じあんな感じ・・・などの意見はほぼ関係ありません。

ジャーナル合格できているなら、一定の水準である推定が働くし、そうではないなら働かなということです。

一方で受験生は、

YouTube、SNS のフォロワー数、インターネット掲示板、本の誰が書いたのか分からない書き込みなどの素人の意見や、お金でどうにでもなるフォロワー数、学問と関係のないユーチューバーを気にしています。

だから、点数を取ることができません。

それでは、実際にきちんとした人に小論文を学ぶという段階になった際にどのような問題があるのでしょうか。

〈小論文対策についての問題点〉

問題点１：問題解決がはかられるかどうかわからない。

問題点２：講師が有している小論文上達理論が正しいかどうか分からない。

問題点３：思考技術が高まるかどうか分からない。（何が出ても考えることができるか。）

問題点４：頻出分野の知識が十分に増加するかどうか分からない。

これらの問題点の柱から、「合格点が取れるか

どうかわからない」という大きな問題が形作られます。



理論が正しいかどうか分からず、思考技術、書く力、知識が高まるかどうか不明

これが、あなたが抱えている小論文対策についての問題点です。

図にするとこうなるでしょう。



一般的な小論文の塾では、思考技術は高まるかどうかわからないし、知識も十分確保することは難しい上に、上達理論が未整備であり、（つまり、指導実績や成績引き上げ実績に乏しく）あなたができないことができるようになるかどうか不明です。

その状態を放置したまま、受験日を迎えるとどうなるでしょうか。

できない状態で試験会場に行くことになりますので、最悪のケースでは、他の科目は合格点、小論文が不合格、従って、不合格でもう一年・・・となるかもしれません。

具体的には、試験会場でできると思っていたのに、問われると何も考えることができなかった。時間ばかりが無情に過ぎている。他の受験生はスラスラ書いている。自分は書くことがない。苦し紛れに書いたネタは論点がずれているとみなされて大減点に。一般科目の内容は評価できるのに、考える力や医師の素養を疑われて不合格。これが最悪のケースです。

〈あなたの損失〉

1年分の高い学費に加えて1年間のつらい勉強期間、友人・知人が進学してSNSなどで知る精神的ストレス、社会貢献の機会を失う・・・などの、損失があるように思われます。

今からでは間に合わない？

今からでも間に合わせるコースという慶應進学専門のコースを運営しています。

今からでも間に合わせるにはどうすればいいのでしょうか。

点数があまり伸びない場合、今からでも間に合いません。

従いまして、今からでも間に合わせるには、点数を大きく引き上げることが大切です。

例えば慶應 SFC や慶應を受験するのに、若い学生に小論文を見てもらうのは、まずいでしょう。

点数が下がることもあり、あまり点数が大きく

上がらないためです。そのため、今からでも間に合わせるには不向きな方法です。

また、英語などの成績引き上げ実績が弱いと、今からでも間に合わせるのは難しくなるでしょう。

きちんと成果が出ているやり方で勉強を進めていくことが大切なのです。

〈解決策の概要〉

毎月３～５回程度小論文の問題を解き、小論文を提出して添削を受ければ、だいたい点数は上がります。

多くの受験生の悩みは、何から手をつけていいのかわからないというものです。

特に、小論文、志望理由書、自己 PR 書、面接ということになると、必要な知識も膨大になってきます。そのため、塾に通わずこれらの対策を一人でこなすとなると、それなりの器用さが必要となってくるでしょう。

小論文については、添削なのか、授業なのか、参考書なのか、テーマ型の知識なのか、読書なのか、何をすればいいのでしょうか。



この図のように、何から手をつければいいのか

混乱している受験生がたくさんいます。

当塾の場合、まず今までに教えてきて成果が実証済みとも言える「成績が上がったカリキュラム」をご提供できます。

その上で、オンライン面談を用意することができるので、このような迷いが実質なくなるでしょう。

どういうことでしょうか。

やることはシンプルです。

毎月３回だけ小論文を解いて、原稿用紙に答案を書いて送ってください。

過去問題コースを購入した人は、志望校の過去問題や予想問題を解くこともできます。

その上で、面談の時間が来たら、オンラインで

面談してください。

昨今「謎の風邪」やコロナウィルスが流行っていますが、100%オンラインなので安全なご自宅から、受講可能です。

今はこんな風に書きましたが、本当はもっとシンプルでしょう。

なぜならば、面談で話していれば次に何をすればいいのか、常に指示してくれるからです。

あなたは指示やアドバイスを受けているだけ。それで気づいたら合格。何かいろいろやることがあったかなぁ・・・まぁいいか、受かったのだし。このように受験が終わるお手伝いをしたいと私は考えました。

なぜならば、勉強作業はほとんど仕事と同じであれをやり、これをやり・・という具合に煩雑だからです。

これが嫌で管理系の塾に行く人は、学習戦略なく、小論文がダメ、面接もあまり・・ということで苦戦すると思われます。

なぜでしょうか。
言うまでもないことだと私は個人的に考えているのですが、レベルが違います。

当塾と同じレベルの小論文塾を私は知りません。もしあればご紹介いただきたい。チェックしてみたいくらいです。

誰も小論文で点数を取れないのです。
小論文で点数を取れないのに、点数の取り方を教えることができる道理はないのです。

自明な話です。

いい点数の生徒をかき集めることは広告費の大

量投入でできるでしょう。
だから、「合格したら全額返金」という話も聞いたことがあります。本当は反対ではないですか？やるなら「不合格だったら全額返金」だと思います。

なぜそこまでして合格者レベルを集めたいのか。合格実績が積みあがるからではないかと私は推測しています。あなたはどう考えるでしょうか。

どんなに合格者を HP に掲載しても、それとあなたが点数を取れるかどうかは別問題。簡単に、（なんだか受かりそうだなぁ・これは大変なウェブサイトを見つけてしまったぞ）と受験生が信じ込むだけの話です。

受かる理論も同じく、広告宣伝ページで見た理論ばかり。受験生は、広告を何度も見ている内にその理論で受かるのかな？という錯覚に陥るのが一般的なようです。

これが SNS 時代、ネット時代、情報化社会時代。つまり、情報強者になれる時代ではなく、あまり役立たない合格理論をついつい信じてしまうのが、ネット情報化社会時代の特徴です。

当塾は口八丁手八丁で販売していくのではなく、骨太の本物のサービスにこだわってきました。

私自身が小論文試験で点数を取れてきたという実績もありますが、さらにより良い内容を教えることができるように、大学院修士課程、博士課程と進学。

それだけではありません。

修士課程では、マッキンゼー社という世界最高水準の思考技術を学び。博士課程では、MIT などの世界一の大学で教える先生に学術のいろ

はを学びました。

だから私は思うのです。
うちより良い指導を行っている小論文の塾を私は知らないと。

点数を上げたいなら当塾を自信をもってオススメします。

大事な試験の直前に風邪をひくなどの場合、第一志望の合格に影響してしまうでしょう。その点、100%オンラインは安心・安全と言えます。

小論文は段階的に「ここをしっかり理解すれば点数を確保できる」というメカニズムが存在します。

小論文に関するアレコレを学べば自動的に上級

者になれるわけではありません。

ここは、大きな勘違いです。

言ってみれば、誰も小論文上達の体系的なプログラムを構築できていないとも言えます。

当塾はそこに取り組んできました。

雑多なあれこれを詰め込んでもなぜ小論文は伸びないのでしょうか。

その理由は、形式主義とは減点主義に近いことです。

いろいろ玉手箱のようにつめこんでいると、点数が少しずつアップ・・・というわけではなく、最低限のマナーが守られていないなら、ドーンと点数が落ちるのです。

どれくらいまで落ちる？

そうですね、だいたい 30 点とか、25 点といったところでしょうか。

偏差値も高い。成績優秀。名門校出身。自信もある。国語の点数も高い。作文に自信がある。こういうことが、20 点とか、もっと低い点数を取ります。

なぜなのか。

その理由は、小論文は、プライドに反比例しがちだからです。

自信がある人は、慢心を起こしており、慢心は、乱暴な論調へとつながりがちです。

若い学生が書いた偉そうな文章。これほど点数が強烈にダウンする文章はありません。

この理解目標を体系的に当塾では設計しているので、階段を上るように、段階的に初歩的なことからステップアップできるのです。

また、点数が上がることが実証済みとも言えるような、長年の教育経験から大事だと牛山が断言できる「最重要理解ポイント」をあなたは演習することになりますので、他のあらゆる小論文に関する取り組みよりも、はるかに大きく点数を伸ばすことができると牛山は確信しています。

一般的に小論文対策の罠は、以下のようなものです。

罠１：やってもやっても点数が上がらない

罠２：解説などを聞いて分かったつもり

罠３：構文などを用いて書けたつもり

なぜこんなことになるのでしょうか。何を教えても小論文の授業だからです。

このような罠はいわば、やってるだけの小論文対策と言えます。受かることが目的なのですから、やっても意味がない対策や、やれば点数が落ちる対策は意味がありません。

小論文は一般的に、数学や物理と異なり、教わることで点数が伸びる科目です。逆に言えば、教わっていなければ、あまり点数が伸びません。

中には教わっても伸びないのではないか・・・と勝手に心配している人もいますが、このような人は先入観で単に心配しているだけです。

それでは、誰に教わってもいいのかと言えば、そんなことはありません。

なぜならば、一般的に、学校の先生も含めて、小論文は何を教えていいのかが分からないからです。

つまり、言い方を変えると、解法なし、記述方法なしあるいは、不適切な記述方法、表現力アップなどの補完的な指導なし、思考技術なし、発想術なし・・・なのです。



さすがにそんなにひどい小論文指導は無いとあなたは思うかもしれませんが、これと似た小論文指導は多いのです。

次はこんな感じで書いてみようという小論文指導も、あいまいですよね。

一方で、きちんと教えてもらうべき内容がつまった小論文指導とはどうでしょうか。

教えてもらうべき項目が、整然とぎっしり並んでいる

ダメな教育機関には教えることがない。点数と実力につながる内容には、教わるべき項目が具体的にある。

高得点

問題解決力

1 時間が足りない問題

- 速読力
- 資料分析力
- 読解力

限られた時間で正確に情報を処理する力を鍛える

2 思いつかない問題

- イノベーション思考
- フレームワーク
- 論理的思考力
- 問題意識
- クラウド学習力
- 知識・知見

発想の引き出しを増やし、考えの土台をつくる

3 考える事ができない問題

- クリティカルシンキング
- ゼロベース思考
- 論理的思考力
- 問題意識
- クラウド学習力
- 知識・知見

思考の土台を固め、自分の頭で考え抜く力を磨く

問題発見力

4 書けない問題

- 記述力（表現力）
- アカデミックスキル

考えを整理し、論理的に書く力を高める

5 読めない問題

- 読解力
- 知識・知見

本文を正確に読み解き、知識を活用できる力を養う

教わるべき内容がある塾は、教える中身が具体的に見える。

表現力	内容力	発想力	構想力
考えを言葉にして伝える力	中身のある答案を作る力	新しい視点を生み出す力	全体を組み立てる力

教えるべき項目が見えている指導は、得点力を育てる。

このように、小論文試験で点数を取るための技術は多岐にわたります。

これらをすっかり教えてもらうことができる塾があるでしょうか。

ほとんどありません。

当塾は違います。きちんと様々な技術を提供します。授業が多すぎるのは困る・・・という人は受けなければいいだけの話なのです。
（ここは、100%オンライン塾のよいところです。）

ところで、当塾でも、あまり授業を受けたくない人は存在します。

そういう人が、受ける授業を簡単に絞る方法があります。

当塾の場合、処方動画システムというものがあ

り、受講生の弱点を補強する授業を添削者が選択して、オンラインで提供しています。

この場合、受講生は明らかに減点されており、明らかに技術が不足している部分についてピンポイントで教えてもらうわけですから、授業を受けても効果的と言えます。

例えば、表現力がないなら表現力の授業。
例えば、説明問題の解き方が間違っているなら説明問題の解き方の授業・・・といった具合です。

このようにしてやるべきことを絞れば、あまり時間をかけずに効率よく点数を伸ばしていくことができます。

がっつりと時間をかけなかったのに、点数がたくさん伸びてお得だったなぁ・・・そうなるのが理想ではないかと私は考えています。

〈時間が無いと考える人へ〉

一般入試と総合型選抜の両方を進めることは時間的に無理・・・と考える人はぜひ一度立ち止まって考えてください。

一か月に数度の面談で、志望理由書や自己ＰＲ書もだいたい完成してしまうなら、月に２～４時間で一般入試も強くなり、総合型選抜の対策も完了してしまうことになります。

一般的に書類は、時間をかければかけた分だけよくなるものではありません。

よく勘違いされがちな点ですが・・・
時間をかけても、時間をかけなくても、点数はあまり変わりません。

総合型選抜の書類は、時間をかけただけよくな

るという性質のものではありません。

１０００文字の文章は、手書きで15分程度あれば書けてしまいます。もちろん、もっと時間をかけて、１時間で書いてもＯＫです。この場合、１時間で必要な書類が一枚完成したことになります。

つまり、総合型選抜の書類は、１日で書くのが、本来的には当たり前と言えます。

とてつもなく時間がかかるイメージが受験業界で作られているだけです。

牛山のチェックが入れば鬼に金棒？

短時間で作るとはいえ、改善点はしっかりとアドバイスします。一発で書き上げることもできるかもしれませんが、通常最低５回は部分的にであっても書き直しが必要だと考えてくださ

い。

志望理由や自己ＰＲは、落ちたら無意味と考える人もいるかもしれませんが、少なくとも、短時間で文章を書きあげる練習にはなっています。

研究者の視点が入ることで、志望理由書や、その他の書類の精度が大きく向上します。なぜでしょうか。大学は研究機関だからです。よく書けた文章とは研究を理解している文章のことであると考えましょう。これが、総合型選抜で勝ち抜く裏技となります。

当塾の慶應クラスに入ると、仮に万が一不合格となっても次の年には必ず合格し、試験をらくに突破してしまうでしょう。

もちろん、今年も合格しやすくなる。
英語の成績は上位１％なんて当塾では当たり前。全国１位もいた。

小論文の成績は同じく上位１％になってもおかしくない。

暗記科目は上位 10％に入るでしょう。

要は学習コンサルをつけるということなのです。
学習力がなくてエリートはたくさんいます。
そこへ牛山がサポートにつくと、あなたは彼らをきっとごぼう抜きにできると思います。
牛山が運営する塾は生涯学習の塾。

こんな塾はないのです。普通の塾は大学受験の

ときだけぱっぱ。

でも今は不要。なぜならば・・・AI がありますから。授業を聞いて 10 倍遅いよりも、AI に聞いて 10 倍速い方がいいと思いませんか？

AI を使いこなすのはこれから必須。使っていない若者は時代遅れ。AI も使いこなせないのに大学受験なんて・・・ちょっとおかしいですよね。

AI は東大医学部の問題を 3 秒で解きます。
人間はもっとかかる。

AI はすでに、大学教員よりもある意味で賢くなっています。

今の AI は、黎明期の初期型モデルです。
これから汎用型の人工知能が、学習を可能とすると知能爆発が起こると言われています。

ほとんど人間には理解不能な神の領域へと AI の進化が加速すると言われており、そのための技術的なロードマップはすでに何種類も用意されています。

つまり、未来のことなので分からない・・・というよりもほとんど確定的な未来であるし、日本のかつてのどの時代の東大医学生よりも、現状の初期型黎明期のボロイ AI は、素早く東大の入試問題を完ぺきに解きます。

そんな時代に、当塾では、AI が教えることができない領域で学生サポートを行っています。

それは、戦略設計と学習技術、受験戦略、勉強法なのです。

私がサポートすれば、あなたはどんな試験も無双するようになるでしょう。
私はそう確信しています。

この確信はどこから生まれるのか。

今までさんざんやってきたことだから。
なぜそんなことができるのか、それをここからお伝えします。

強い受験生はこう考えます。

学習を効果的にする手順は何か？

英語力があれば東大英語でも慶應英語でも上智大英語でもなんでも９割取れるけど、なければ、〇〇大学専用も〇〇学部専用もヘチマもない。

それにも関わらず、まるで夢遊病者のように専用を求めるのはどうかしています。

その証拠に私のクライアントは、弁理士試験や

公認会計士試験、気象予報士や英検１級と、分野を問いません。もちろん医師もいるし、医学部合格もいるし、米国医師試験合格者もいます。

そもそも受験は、記憶が８割です。
どんなに難しい試験と言われる試験でも、結局記憶でしょ？と言ってくれる人は少ない。

かつて私が弁護士と医師と３人で本を書いた時、最初に合意形成したことがあります。

それは・・・試験は結局８割は記憶で決するという理論です。

覚えていれば受かるし、覚えていなければ落ちる。

試験は、神さまが作ったものでもないし、いい加減に作られているのです。

ある大学教員の竹田先生という方がいて、自分の著書がある大学の入試問題になったので、解いてみた・・・というエピソードがあります。

すると、点数が取れなかったそうです。
著者なのに。

多くの人は、試験で点数がいいと頭がいいことが確定したと思い込んでいますが、試験で頭の良さが計測できているのかどうか分かりません。つまり何が言いたいのか。

試験はハックしたもん勝ちということです。

ハックについてネットで検索すると以下のような定義が出てきます。

「ハック（Hack)」とは、元々の IT 分野における高度な技術的解析・改造の意味から、現代では日常生活やビジネスにおける「効率的な裏技」「工夫や解決策」まで幅広く使われる言葉です。

イメージがわいたでしょうか。

俗にチート化するなどと言われることがありますが、仕組みを逆利用してしまえば、合格することは簡単と言えます。

私自身、慶應義塾大学に合格した際には、記憶するという作業をハックしました。

なんだ・・・記憶といっても、ほとんど自動化できるな・・・と気づいてしまった私は学習対象を分解して、半自動的に記憶する方法をあみだしました。

そして、単語帳や熟語帳を合計 25 冊程度丸暗

記し、数万項目の記憶を作り、スカ勝ちしたのです。

入試までに半年程度しかなかったので慶應義塾を受験しただけであり、もっと時間があれば他の大学を受けたかもしれません。

ただそれだけのことです。

その後この勉強方法を自動記憶勉強法として、書籍で出版します。

スマッシュヒットして、５刷りくらいいきました。

読売新聞の記者が、取材に来てくれました。
読売新聞全国版に８週連続掲載となりました。

弁護士も医師も同意しています。

試験は頭のよさで変なプライドを出す人がいる

けど、単に記憶しているだけだと。

日本初の記憶専門の塾を設立した牛山に、仕事を頼めば、楽して大量の記憶を頭に作ることができるでしょう。慶應進学専門塾も当塾が日本初です。

試験では、あなたの苦悩は点数になりません。
試験では、あなたの想いも点数となりません。
試験では、あなたのプライドも点数となりません。
試験では、苦労して覚えても楽して覚えても同じ１項目は、１項目なのです。

記憶のテクニックを使っても使わなくてもどちらでもかまいません。

どうやって覚えたかなど、問われません。

だから、覚えたもの勝ちなのです。

記憶術などは、ギネスブックに載る人は 10 万桁も覚えているのに、受験生は丸暗記・・・

なんて非効率なことをするのでしょう。

それで勉強がつらい、つらい・・・

覚えられない・・覚えられない・・・

また忘れていた・・・

模試の点数が悪かった・・・どうしよう

受かるかな、受かったらいいな・・・

成績が上がらない・・・

集中できない・・・

バカみたいな悩みだと思いませんか？
わざわざ記憶についてきちんと学ばず、きちん

とした学習を設計せずに

行き当たりばったりで勉強して、効率がいい方法などと検索して、質の悪い情報をつかんで、

また苦しむ

勉強できない・・・
暗記できない・・・
忘れていた・・・
受かるかどうか不安・・・

なぜ素人の動画を見たのでしょう。
それは SNS 時代だから。
SNS を信じているから。
情報が等質だと錯覚しているから。
本物を知らないから。
本物を見つけられないから。

視聴者が本物を見つけられないので、SNS は

機能しないのです。

多くの人は SNS から選べない

SNS は確かに便利で情報があふれているので、一見すると正解がすぐに手に入るような錯覚が生まれます。

ところが、現実には多くの情報の中から私たちは正解を選ばなければなりません。何千も何万もある情報の中から、何が正解なのかを選ばなければなりません。例えば、小論文の書き方についても、A 理論・B 理論・C 理論・・・・と何十もあるのです。どれを信じればいいのでしょうか。

カンタンそうで実は非常に難しいと言えるかもしれません。一方で、プロからすれば、簡単です。例えば、博士課程で満期単位取得の人や研究者はどれが、小論文の正解なのかはっきりわ

かっています。一方で、若い人は、８～９割間違えてしまっています。

こんなにSNSに情報があふれているのに、間違ってしまうのは、単に正しい正解がどれなのか分からないからなのです。

情報があるだけでは技術は向上しない

また、単に雑多な断片的な情報に接するだけでは、技術の向上は見込めません。つまり、なんらかの技術が上達するように、教育プログラムが丁寧に用意される必要があります。そんなわけで、何かを知るきっかけとしては、SNSは機能しますが、それ以外にはあまり役立たないと言えるでしょう。

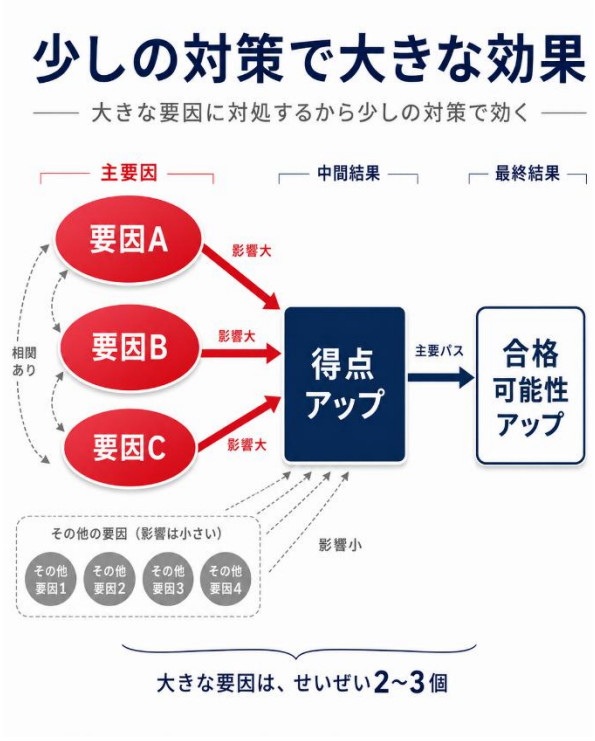
小論文面接だけではない･学習技術も同じ

問題は小論文や面接の正解が分からないことだけではありません。学習技術も同じです。多くの人はどのように勉強を進めていけばいいのかがよくわかりません。SNS で情報を集めても、何が正解なのかよくわからないのです。

その証拠に当塾の生徒は、英語の成績が上位１％に入ることがよくあります。なぜここまで成績が引きあがるのでしょうか。理由は簡単で、英語の学習アプローチがその他大勢と全く違うのです。

一方で普通に塾に行き、普通に授業を受けている人は、その他大勢の人と同じように勉強するので、成績が伸びません。

そもそも論を言うと、学習方法が一番キク



どうすれば成績が上がるのだろうか・・・と

悩む人は多いのですが、そもそも論を言えば、学習方法・勉強方法がもっとも成果（成績）にキクのです。

それにもかかわらず多くの人はせっせと数学の授業を受けてみたり、物理の授業を受けてみたり・・・かめの歩みで、勉強を進めています。

言ってみれば勉強も遅いし、頭にも残らないし、モチベーションも低いし、勉強もできないし、やる気が起きないし、合格の戦略もわからないのです。ましてや小論文もどうすればいいのか知らないし、どう考えればいいのかを知らないし、精神や共感と文章試験の関係もよくわからないし、面接もうまくできないのです。こんな状態で受験がうまくいきますように・・・と願ったところでうまくいくわけがない・・・と思うのは私だけでしょうか。

つまり、多くの人は勉強について、あるべき対

策がなく、ボロボロの状態です。



毎日勉強が思うようにいかず、がんばっているのに成績が上がらない。ぼくってわたしって頭が悪いのかな・・・

他人と SNS で比較して、落ち込んで、勉強しても成果が出ない、よりよい地歩を歩みたいのに、もんもんとしている。

自分は勉強が苦手なのだろうか、勉強に向いていないのだろうか・・・

将来お先真っ暗だ・・・

こんな風に悩んでいる人が多いのです。このまま問題を放置するとどうなるでしょうか。おそらくですが、成績は横ばいとなるか、下降するか・・・どちらかの可能性が高そうです。

このような状況を解決する方法があります。その方法とは、受かる体質に変わる塾のプログラムに参加することです。

これは、しっかりした航路を把握している頑丈な船に乗り換えることとも表現できます。



まずは勉強なんかするな！？

当塾の代表牛山なら、勉強する気が起きない人に無理に勉強をさせても無駄と答えるかもしれません。

まずは勉強などしなくてもいいので、勉強が得意になることが大切なのです。

勉強が得意になってしまえば、言ってみれば足が速い人になるようなものなので、自然と足が速い人は陸上に興味が出る・・音楽が強い人は音楽が好きになる・・・絵がうまい人は美術に興味が出る・・・というように、受験勉強にも身が入るようになるのです。

つまり順番が逆です。

先に学習技術・小論文に強くなってしまえば、勉強が得意になってしまうということです。

パソコンに強くなるにはまずキーボードを高速で打てるようになれ！と書かれている本を昔読んだことがあります。

キーボードを高速で打てるようになれば、パソコンがより一層身近なものとなり、パソコンを使いこなせるようになるのです。

当塾では、高速タイピングの授業もあるので、誰でも簡単に一週間程度あれば、高速タイピングができるようになるでしょう。

英語ができる人は、慶應義塾大学や上智大学、ICU などを自然と目指す場合や、東大などを目指す場合があります。

これなども、先に英語ができる状態となっているからこそと言えるでしょう。目指した後に英語ができるようになるのではなく、多くのケースで、得意だから目指すようになるのです。

まずは勉強なんかするな!?

やる気より先に、“得意”を作るのが大切

ありがちな失敗

1. 無理に勉強させる
2. 苦手なまま進む
3. わからない・遅い
4. 自信が下がる
5. やる気が出ない
6. 成績が伸びにくい



順番が逆

つまり、**順番が大切。**

先に“得意”を作ると、やる気はあとからついてくる

当塾の考え方

1. 学習技術を身につける
2. 小論文・思考力を強化
3. 高速タイピングで操作がラクに
4. 勉強が得意になる
5. 自信がつく
6. 自然と勉強に身が入る
7. 志望校を目指せる



足が速い



→ 陸上が好きになる

音楽が得意



→ 音楽に興味が出る

絵がうまい



→ 美術が好きになる

英語が得意



→ 上位大学を自然と目指しやすい

タイピングが速いと、パソコンがもっと身近になる



“目指してから得意になる”のではなく、
“得意だから目指せる”ことが多い

英語ができるようになれば勉強が得意と思える

不思議な現象でもありますが、英語が得意な人で自分がバカだと思っている人はあまりいません。

多くのケースで英語さえ得意になってしまえば、勉強が『できる側』になってしまうのです。

そういう意味で、英語は、子供の受験や、中高生の受験を考える際に、実はキーとなる科目の一つです。

当塾はこの英語の引き上げが大変得意です。

一度英語が得意となり、(あっいけるかな)という形になれば、最低でも早稲田・慶應、できれば東大・京大・一橋・東京科学大に進学した

いと自然と考えるようになります。

ところが多くの人は膨大な時間を費やして、あまり成績が上がらないのに、上がることを宗教のように信じて、空振りする対策にお金と時間を注ぎ込んでしまいます。これがあまりうまくいかない根本的な原因の一つと言えるでしょう。



この意味ですべての中高生は当塾に入塾すべきである・・・と塾長の牛山は本気で思っています。

ちょっと教えてもらうことと、中核を教えてもらうことは同じようで全く異なる

当塾は授業はやりません・・・と言えば、それではチョット教えてもらうだけなのかと早合点する人がいます。

そうではありません。

だらだら学生の時間を例えば５００時間奪い取り、授業をだらだら５００時間やっても学生の頭の中はすっからかんなのです。

これは、授業がいわゆる受け身の情報になるためです。頭に残すには、積極的に思い出すという行為が必要であることが各種研究によって分かっています。

大事なことは教えてもらう時間ではなく、違いを生み出す違いについて明確に理解させてもらうことなのです。

英語の学習についての中核は、英語の学習方法・英語の読解・英語の学習方法が適切に実行されているかのモニターの３つだけです。

逆に言えば、この３点をスルーしてしまうような受験対策、受験サポートは・・・わかりやすさのためにやや極端に表現しますと・・・穴の開いたバケツと同じで、やってもやらなくても同じ無価値な対策と言えるでしょう。



量をたくさん教えてもらえないのであれば意味がない・・・などというのは壮大な勘違いです。意味がないことに時間を大量に奪われることが、極めて大きな人生における損失なのである・・・という強い危機意識をご両親も受験生本人も、小学生までも、持つべきであると私は考えています。

本を毎月大量に読むことができれば人生は変わ

ります。

従って当塾は一生活用できる塾とも言えるのです。

このような点について、かつて私が運営する塾で学んだ辻本さん（慶應大学４学部合格・公認会計士ストレート合格）は、必要なことだけ教えてくれる・ビジネスマンになってから速読が猛威をふるっている・・・などと語ってくれています。

思考力がまずは大切

多くの人は大きな良い会社で働くために、正規の学力をつけなければならない・・・と考えます。

ところが、オンライン環境の発展、AI の発展、人生選択肢の増加、学歴社会の崩壊、雇用環境の変化、グローバリゼーションの台頭、副

業など働き方の多様化が現実的な問題となってくると、勉強ができるだけでは仕方がないのではないか・・・？

と考える人も増えてきています。早稲田を主席で卒業して銀行マンから田舎暮らし・・・など、生き方の多様性も SNS でクローズアップされるようになってきました。

このような変化にとんだ社会の中で力強く生き抜いていくためには、強い精神性に裏付けられた思考力の土台が大切です。

また、このような時代の変化を受けてか、大学側も正規の学力をあまり要求しなくなってきました。

その典型例は例えば慶應義塾大学ＳＦＣの一般入試（英語か数学か情報ができれば合格）や、総合型選抜入試と言えるでしょう。

お勉強ができるよりも、考える力や生き抜く力、社会貢献をやりきる情熱を大学側が高く評価するようになってきたのです。

一方で、このような時代の大きな変化に対応しきった塾もほとんどありません。

モチベーションコントロールすら思考力？

考えようによってはモチベーションコントロールの技術は自分の客観化と思考力の問題でもあるのです。

ほとんどの人はモチベーションをコントロールすることができません。なぜなのでしょうか。その理由の一つは、モチベーションのメカニズ

ムを知らず、調べようとせず、理解せず、問題の真因に気づいていないことです。

言い替えると、勉強のやる気すら、思考力でねじ伏せるように解決できる可能性は常にあるのです。

思考力がまずは大切

変化の大きい時代は、“勉強ができる”だけでは足りない

1 ありがちな考え

1. いい会社に入るには、まず正規の学力が必要
2. 勉強ができれば将来は安心
3. 偏差値が高ければ人生もうまくいく



2 しかし、社会は大きく変化している

- オンライン環境の発展
- AIの発展
- 人生の選択肢の増加
- 学歴社会の揺らぎ
- 雇用環境の変化
- グローバリゼーション
- 副業・働き方の多様化
- SNSで多様な生き方も可視化される

だからこそ、強い精神性に裏付けられた

思考力の土台が大切

- 考える力
- 生き抜く力
- 社会貢献をやりきる情熱

3 大学が高く評価し始めているもの

以前の重視

- 正規の学力
- 知識量
- 偏差値

今、より重視されやすい力

- 思考力
- 主体性
- 生き抜く力
- 社会貢献への意欲
- やりきる情熱

例：総合型選抜、思考力・個性を問う入試



例として、慶應義塾大学SFCの一般入試や総合型選抜のように、従来型の学力だけに依存しない評価も注目される

4 モチベーションコントロールすら、思考力の一部

1. やる気が出ない
2. なぜ出ないのかを観察する
3. 仕組み・原因を理解する
4. 真因を見つける
5. 対策を打つ
6. やる気を“待つ”のではなく、整えられる

自分を客観視し、問題の真因を考える力が、勉強のやる気にも効く



勉強のやる気すら、思考力で解決できる可能性がある。

これからの受験で大切なのは、知識だけでなく“考える力の土台”を育てること。

小論文がとにかく強い塾

小論文には思考力が必要です。当塾は小論文がとにかく強い塾です。

全国模試1位の報告を3年連続でもらう・・・偏差値87.9まで引き上げの実績、法科大学院次席合格（学費免除）などの実績もあります。

もちろん、東大・京大・医学部への合格実績もあります。小論文が難関の慶應義塾大学への合格実績も多数あります。

なぜこんなに小論文に強いのでしょうか。

その理由は、私は二つの世界一にあるのではないかと考えています。

一つ目の世界一は、マッキンゼーという思考技術世界一の定評がある技術を私は間接的に学んでいることです。

私が学んだ大学院は、MBA のコースなのですが、この大学院はマッキンゼーの元社長であった大前研一先生が運営しています。

そのため、教員は当時ほとんどマッキンゼーの OB でした。そうなってくると、そこで指導される内容は、マッキンゼー社の社内研修のようになってくるのです。

他の大学院ではこうはいきません。簡単な話です。例えば、ある人に向かって、例えば日立グループや、トヨタの経営戦略を立案してくださいと言ってみれば、わかります。

思考技術がしっかりしていれば、時間がなくとも財務成績などのオンライン情報を拾い集め、オンラインの情報を土台に経営戦略を質実剛健に作ってしまうでしょう。

一方で、思考技術が無い人は、これができませ

ん。つまり、MBA と一口に言っても、経営戦略を立案できない知識伝授型の MBA であふれているということです。

Stanford 大学で教鞭をとった経験もある大前研一先生は、Harvard のケースメソッドを否定。なぜならば、古いケースで学習しているからとのこと。

今現実に現存する企業の今の課題を論理的に思考することで思考技術は鍛えられるという思想の元、私は BBT 大学院でこのガチンコの思考訓練を 2 年間やり切りました。

その中で、知識だけの論理思考ではなく、本物の論理思考を体得したのです。

もう一つの世界一は、大学ランキング世界一の MIT ので学び、研究した先生に学術をおしえてもらったことです。

大前研一先生は MIT で博士号を取得しています。
両者とも超一流です。この超一流の指導を私は幸運にも受けることができたのです。

学術の分野では、どの学派の人間なのかということが重視されることもあります。この意味において、私は世界最高ランキングの MIT の学術を間接的にしっかり学ぶことができました。

世界一×世界一

小論文には思考力が必要です。だから当塾は、小論文にとにかく強い。

- 全国模試1位の報告3年連続
- 偏差値87.9まで引き上げ
- 法科大学院次席合格（学費免除）
- 東大・京大・医学部・慶應合格実績

世界一① 思考技術

- マッキンゼー系の思考訓練を土台に学ぶ
- 大前研一先生が運営するMBA環境で鍛えた思考力
- 元マッキンゼー系の実践的な発想法
- 古い知識の暗記ではなく、今ある課題を論理で解く



本物の論理思考が、小論文の構成力・発想力を支える

世界一② 学術

- 世界最高峰の学術系譜から学ぶ
- MITで博士号・研究経験を持つ指導系統に学ぶ
- 学術的な厳密さ・思考の深さ・研究的視点
- 論理だけでなく、学術として通用する文章力へ



学術の深さが、小論文の説得力と質を引き上げる

だから小論文に強い

- 論理的に考えられる
- 問いに正しく答えられる
- 説得力ある文章が書ける
- 難関大学の小論文に対応できる



思考技術 × 学術の融合が、当塾の小論文の強さ。

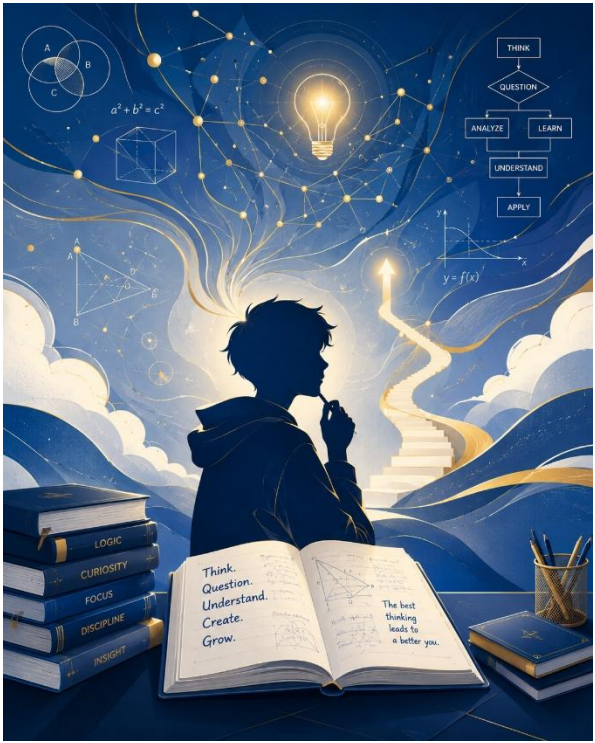
知識だけでなく、本物の思考力と学術的土台で、難関大の小論文に立ち向かう。

それだけではない

ちゃんと速読もやる（希望者のみ）

本を大量に読む癖をつけるには、速く読めることが大切です。

考える力が前向きな行動をもたらします。多くのケースでやる気が無いのは、考えていないことも原因なのです。


A
B
C
$a^2 + b^2 = c^2$
THINK
QUESTION
ANALYZE
LEARN
UNDERSTAND
APPLY
$y = f(x)'$
LOGIC
CURIOSITY
FOCUS
DISCIPLINE
INSIGHT
Think.
Question.
Understand.
Create.
Grow.
The best thinking leads to a better you.

英語と小論文が得意になると、完全に慶應大学が射程に入る

英語と小論文をまずは得意にしてください。まずは勉強なんてやらなくていい。

英語と小論文が得意になってしまえば、配点比率上、慶應義塾大学に安定的に合格できるようになってきます。

この状態で、国立の対策をすることもできます。先に慶應に合格できる状態を作ってから上位国立を目指す受験戦略を私は提唱しています。

その受験戦略を詳しく解説したのがこちらの書籍です。



ここまでお読みいただいた方なら、本書のタイトルが偽りなしとすぐにおわかりいただけると思います。

そもそも私は慶應進学専門塾を運営してきたため、このような受験戦略を実行するのに最適な

人生経験を積んでいるのです。

当塾に入塾すれば、ここまでに記載した高度な問題解決や一流の学びをあなたも間接的に得ることになるでしょう。

なぜそんなことがこれからの時代において極めて重要なのでしょうか。

その理由を暴露したのがこちらの書籍です。



この本は自分で言うのもなんですが、それなりにとんでもない本です。なぜならば、総合型選抜の秘訣を暴露してしまったのですから・・・

多くの人は総合型選抜には総合型の対策が必要と考えていますが、実はそうではありません。

総合型選抜は、学力以外を評価する入試なのですが、現実には大学の先生は研究者なので、実質的に研究の素地しか評価していないのです。

そんなばかな！

そんな風にあなたは思ったでしょうか。もちろん、大学入試の趣旨は、研究力判定ではありません。

しかし、例えばプロサッカー選手が誰かを評価するとして、サッカーの素地以外評価できるでしょうか。

大学とは研究する場所、研究機関なのです。博士号とは研究者ライセンスなのです。

研究者が研究機関で教える学生を選抜するわけですから、研究力主体で研究の才能を見るのは当たり前といえば当たり前なのです。

〇〇大学とブランドを感じるのは、受験生の勝手です。しかし現実には、大学では、研究ができる人は優秀だし、研究ができない人は、逆立ちしても、優秀などとは思えない・・・

これが研究者の本音です。

つまり、いろいろな評価軸の中で、研究力の基準が突出して大きいのです。

総合型の書類は1週間もあれば作れます。1年もかけている場合ではありません。

私自身東大・京大・東工大などから内諾を受けて受験しましたが、受験準備など1週間程度しかかけませんでした。

時間をかければかけるだけ合格しやすくなるというものでもないのです。時間をかければ・・

努力すれば・・・というのは、暗記の学力の発想です。

研究者は努力しても研究ができるようになるかどうかは、わからないと本気で考えています。

言い替えると、それだけ研究は厳しい側面もあるのです。

１００年努力しても出せない研究成果を天才はあっさり１年で出してしまうのですから・・・

そういう意味では、多くの人は、頭がいい人にはかなわない・・・などと考えていますが、研究の世界こそまさにその世界です。

もちろん、研究成果は、頭の良さだけで出るわけではありません。

しかし、そのように考えられているフシがある

のは、間違いないでしょう。

頭がよければ研究成果は出るし、頭が良くなければ研究成果は出ない・・・

このような考えは真実ではないと思います。しかし、世間一般の人が、東大に合格すればなんでも判断できる・・・というように、研究者は考えているかと言えば、あまりそんな風には考えていません。

医師よりも弁護士よりも、ビジネスパーソンよりも、最高知性として、最高学位としての博士号を取得した人が世界の最前線の知を唯一開拓している高度専門職として研究をしている・・・

と考えているかもしれません。

つまり、研究者以外は実務家なのです。実務家

の知には意味がありますが、研究者の研究する知にも意味があります。

研究者はどこか、プレーヤーとは違う・・・と考えて、法学・医学・経営学・自然科学を研究しているものです。

今の時代は、AI が優秀となったのでこのような価値観はゆらぎはじめているかもしれませんが、まだまだこの考えは引き継がれそうです。

このような事情に精通した上で当塾は完全対応しています。

つまり、受かるはずがなかったかもしれない人の研究力を総合的に鍛え直して、大学に合格させてしまう・・・というちょっとしたマジックのような本質的な総合型選抜ができます。


総合型選抜対策
一般入試対策
総合型選抜対策と一般入試対策の
ダブル対策を
『通学中の時間』で消化して、
合格率を引き上げる
ダブル対策戦略
第二の塾として当塾をご提案します。
無駄な 授業、
無駄な 学習管理、
無駄な サポート 一切しません！
なぜならあなたの時間が大切だからです。

覚えておいてください。総合型選抜に時間などかかりません。せいぜい1週間もかけて書類づくりをすれば誰でも試験なしで最難関大学に合格できるのです。

成功には再現性がないのではなく、パズルのピースがそろっていないことが問題

時々、あなたの塾に入塾すると本当に成績は上がるのか？を気にする疑り深い人がいます。

このような人は皆違うので、同じ成果はでないと考えがちです。

ところが人間は、シカやブタではないので、同じ人間であれば、原理的に作用するポイントが存在します。

それは例えば記憶のメカニズム、認知のメカニズム、理解のメカニズム、技術習得のメカニズ

ムなどです。

人間である以上これらのメカニズムから外れません。

したがって、あとは、うまくいくパターンを知り、そのパターンに自分を乗せることが大切になります。

環境がそろうから成功するのではない　GACT の言

自習室が無いから勉強できないとか一流校じゃないので勉強できないというのは、GACT さんの考えから言えば、言い訳かもしれません。

解決策をそっと授けると、環境のせいで勉強できないと言う人は、苦しい勉強をしていることが少なくありません。

つまり、勉強を楽にする工夫ができていないのです。

楽に勉強する技術を身に着ければ、勉強は勝手に進んでいきます。

何が問題なのか

考えることもしない、分からない、どう考えればいいのかわからない、練習したこともない、やる気もない、やる気の引き出し方を知らない、指導されたこともない、導かれたこともない、勉強がうまくいっていない、学習技術を知らない、知ろうとしてもうまく選べない、何が正しいのか分からない、どんな勉強法がキクのか分からない、今うまくいっていない、得意という意識もない、勉強が苦しい・・・

このような状況で勉強がうまくいくことを願ってもなかなか難しいでしょう。

これらの問題をまるっとすべて解決していくことを目指すのが当塾のサービスです。

解決策のご提案（キーは学習技術・小論文・面接）



授業はオンラインにすべてあります。したがって、受講生は毎月これらの開講された授業を少しずつみてもらえれば OK です。

全部見ることができない場合は、添削された小論文をオンラインで確認できるのですが、その際に見てくださいと出される動画だけを見てもよいでしょう。

一か月に小論文を 3 本だけ書きます。（SFC 特化クラスやマンツーマンコースは 5 回）これを提出していただきます。

適切な小論文の練習回数は月に 3 ～ 5 回です。それ以上は空転していてほとんど意味がないのであまり書くことばかりに腐心しないようにしましょう。それよりも、ほとんどの学生は頭に知識や学びを入れることができていません。

オンラインの面談は、今の学習がどれだけ進ん

でいるかの確認や、きちんと指導どおりに勉強が進んでいるかのチェックに利用していただきます。

あまり難しく考えず、自分で何もかも判断するのが難しいなら、任せてもらえればすべてうまくいくと私は考えています。

つまりこういうことです。
きちんとできる人と話していると万事うまくいく・・・・こういうことです。

例えば将来の希望がありません・・・志望校も決まっていません・・・という場合、なぜ決まっていないのですかとか、ダメじゃないですか・・・となるわけではありません。

何も目標が無い場合、やる気も起こりにくいので、仮に目標を作っていくのもいいでしょう。

ポイントは、導き手と話をしているとだいたいうまくいくということです。

なぜならば、成功とは、パズルのピース集めだからです。

当塾であなたと面談する担当者は、あなたに足りないものをさりげなく何度も提案してくれるでしょう。

そうすればうまくいく可能性が増大します。



若い学生と話をしていると、成果を出すのに無関係なことでよく悩んでいることに気づきます。

そんな時は月に２～４度の面談の際に、単純に『〇〇をやっていきましょう』と言ってもらえばよいのです。

そうかそれをやっていけばいいのだな・・・と気づきを得て、人生の軌道修正ができます。

サービスの詳細

サービスは以下のとおりです。

●オンライン授業（数百本あります。）
●小論文添削サービス
●オンライン面談

これらのサポートを受けるとどうなるのでしょうか。

以下に箇条書きで、理想とする教育目標を書きます。実績に裏付けられた目標でもあります。

〈実績に裏付けられた教育目標〉

① 英語が読めるようになる。
② TOP 層の成績になることができる。
③ 暗記科目が楽になる。
④ 上位 10%目安の成績になる。
⑤ 小論文がスラスラ解けるようになる。
⑥ 上位層の成績になれる。
⑦ 上記の結果として慶應大学に合格できる力を短期間で養成できる。
⑧ 数学などの理数系科目の勉強法も変わり、成績が向上する。
⑨ 国立大学などを目指すことができるようになる。
⑩ 勉強することが楽になり、モチベーションが上がる。
⑪ 一日に 10 時間でも勉強できるようになる。
⑫ 精神面が強くなり、ストレスを感じにくくなる。

⑬ 目標に向かって突き進むことができるようになる。
⑭ 面接の練習をすることで面接が上手になる。
⑮ 総合型選抜の書類づくりもアドバイスで楽に仕上げることができる。
⑯ 総合型選抜も受かりやすくなる。
⑰ 上記の結果として、下でも早慶・できれば、上位国立大学を狙う素地ができる。
⑱ 一生役立つ速読の技術などで、大学に入ってからも成績をキープしやすい。
⑲ 大学を卒業してからも学習技術が各種資格試験対策などで役立つ。
⑳ 安定的な人生を歩む素地、武器ができることで、人生が楽しくなる。

当塾の代表牛山は、スキルアップコンサルタントです。

だからこそできるこのサービスは、唯一的なものだと自負しています。

なぜでしょうか。
理由１：当塾は記憶専門の塾を日本で初めて設立（試験は８割以上記憶です。）
理由２：様々な技術習得支援専門会社
理由３：試験対策で豊富な実績
理由４：慶應を軸とした戦略軸を採用するには、慶應進学ノウハウが必要。長年慶應進学専門塾を運営。自分自身も合格。※ほとんど勉強していない。

牛山の経歴をみてもらうと分かることがあります。第一に牛山は、幼稚園からエリートではありません。幼稚園からエリートですごいリーダーは、あなたがタイムマシンにでものれないかぎりあまり参考になりません。幼稚園からずっとお勉強組でもないのに、東大医学部卒以上の論文成績・・・これが牛山なのです。



当塾の講師の簡単な経歴（牛山　恭範　Yasunori Ushiyama）

東京科学大学（旧東京工業大学・旧東京医科歯科大学統合校）博士後期課程在学。全単位取得済み。（PhD Candidate）BBT 大学院修了。（MBA）元マッキンゼー社代表であった大前研一学長より師事を受け、論理思考・問題解決思考を学ぶ。世界一の大学である MIT で博士号を取得した大前学長、MIT で研究員を務める指導教員から間接的に世界一の学術的技術を学ぶ。慶應義塾大学 SFC 一発ダブル合格。慶應義塾大学を自主退学し、飛び級的に大学院に

進学。大学在学中に起業し、現在株式会社ディジシステム代表取締役。小論文の著書・学習法の著書多数。（改訂版をあわせて約 45 冊）代表著書に『高得点小論文解法集』・『小論文の教科書』・『看護学部・医学部・看護就職試験小論文対策を 10 日間で完成させる本』がある。自らが運営する塾の成果として、全国模試小論文成績全国 1 位の報告を 3 年連続でもらう・偏差値 87.9 への引き上げ・全国模試トップ・法科大学院次席合格などがある。なお自分自身も大学院では成績優秀者となり、東大医学部卒・東北大学医学部卒・筑波大学医学部卒の医師・東大博士課程修了者（医療系）以上の論文成績を取得。平均約 9 割小論文で取れる講師・学部よりはるかに難易度の高い博士課程入試でも 9 割程度の点数を取得する講師・自分の点数をオンラインで公開できる講師として活動。



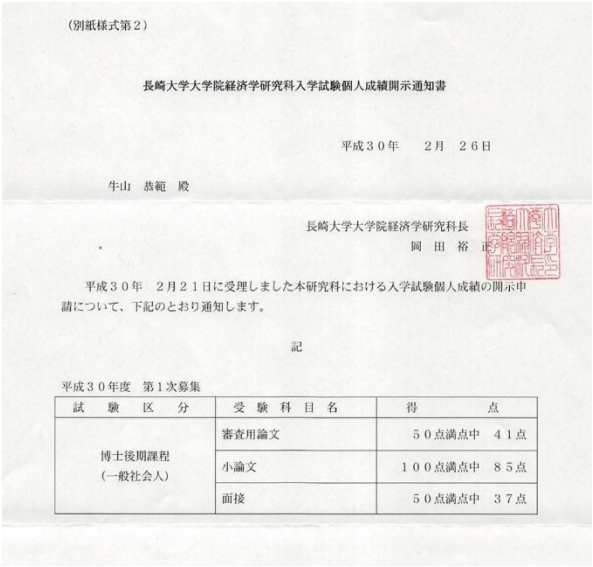
写真：大学院修了時の記念撮影。肖像権に配慮。※左が牛山



写真：旧東京工業大学大学院博士後期課程の学生証



写真：牛山が運営する慶應義塾大学進学対策専門塾※元教え子の辻本さんとの記念撮影。（慶應義塾大学４学部合格、公認会計士試験ストレート合格）



（別紙様式第２）

長崎大学大学院経済学研究科入学試験個人成績開示通知書

平成３０年　２月　２６日

牛山　恭範　殿

長崎大学大学院経済学研究科長
岡　田　裕　正

平成３０年　２月２１日に受理しました本研究科における入学試験個人成績の開示申請について、下記のとおり通知します。

記

平成３０年度　第１次募集

試　験　区　分	受　験　科　目　名	得　　点
博士後期課程（一般社会人）	審査用論文	５０点満点中　４１点
	小論文	１００点満点中　８５点
	面接	５０点満点中　３７点

写真：国立長崎大学博士後期課程入試の得点開示請求による点数（牛山）※学部入試とは比較にならない難易度の試験で９割弱の点数を確保。２時間で約 6000 文字を執筆する論文試験で、完答し、点数を確保した。※自分の点数を公開できる小論文講師はほとんど存在しない。あなたが受ける小論文指導が机上の空論ではない証拠の一つとして提示。


MBA上位5%相当の成果
年間50回の
論文試験を受ける
上位5%の成績
上位
5%
の成績
年間50回
論文試験を受験
継続的な挑戦
分析力を強化
上位5%の成績
全国レベルでの高評価
知識の蓄積と応用
成果を研究・実務に活かす



Kenichi Ohmae
Graduate School
of Business

優秀者奨学金決定通知書

2012 年 9 月吉日

経営学研究科 経営管理専攻
学籍番号 UF110010
氏名　　牛山 恭範 様

支給額 [redacted]

あなたは 2011 年度秋期入学者の優秀者奨学金(進級時)の付与が認められましたことを
ここに通知します。

[redacted]

ビジネス・ブレークスルー大学
学長 大前 研一

写真：大学院修士課程在籍時に成績優秀者（上位 5%成績）となった際の書類。あなたが受ける小論文指導が机上の空論ではない証拠の一つ

として提示。※自分の点数を公開できる小論文講師はほとんど存在しない。東大医学部卒、東大博士課程修了者、東大大学院卒の 1 級建築士以上の論文成績となり、MBA を取得した。



写真：研究者として学会発表に参加する牛山
※牛山は学校法人の小論文の教員もしています。

教育指導実績

当塾の講師は、ハイレベルな世界のトップジャーナルに現役で論文を投稿しています。

2016年度　生徒用

早大・慶大オープン　個人成績表

1－(1) 第1志望大学・学部　科目別成績

	配点	換算得点	得点	偏差値	平均点	順位	/受験者数
慶大英語　総合	200	126	126	56.5	107.4	63	251
慶大小論文総合	200	160	80	73.1	86.5	1	316
総　合	400	286	206	69.6	189.1	8	326

配点：本人試での「配点」を表示しています。
得点：本機試での共通問題、選択問題を合わせた「得点」を表示しています。
換算得点：得点を本入試配点に傾斜をかけて表示しています。
偏差値、平均点、順位は換算得点を用いています。
※上記成績表は第1志望に必要な科目のみ表示されます。

1－(2) 第1志望大学・学部　学力分布状況

評価偏差値	人数	□=5人
75.0～	0	
72.5～	3	□
70.0～	3	□
67.5～	5	■
65.0～	9	□□
62.5～	5	□
60.0～	26	□□□□□□
57.5～	28	□□□□□□
55.0～	24	□□□□□
52.5～	42	□□□□□□□□□
50.0～	32	□□□□□□□
47.5～	20	□□□□
45.0～	31	□□□□□□□
42.5～	27	□□□□□□
40.0～	14	□□□
37.5～	16	□□□□
35.0～	15	□□□
～ 34.9	26	□□□□□□

3 第1志望～第4志望　学力評価

第1志望

大学・学部・学科（定員）：慶應義塾大学　総合政策学部　総合政策　定員（ 275 ）

評価使用科目得点

科　目	配点	換算得点
英語 9	200	126
小論文	200	160
総合	400	286

合格可能性評価：A

評価別人数

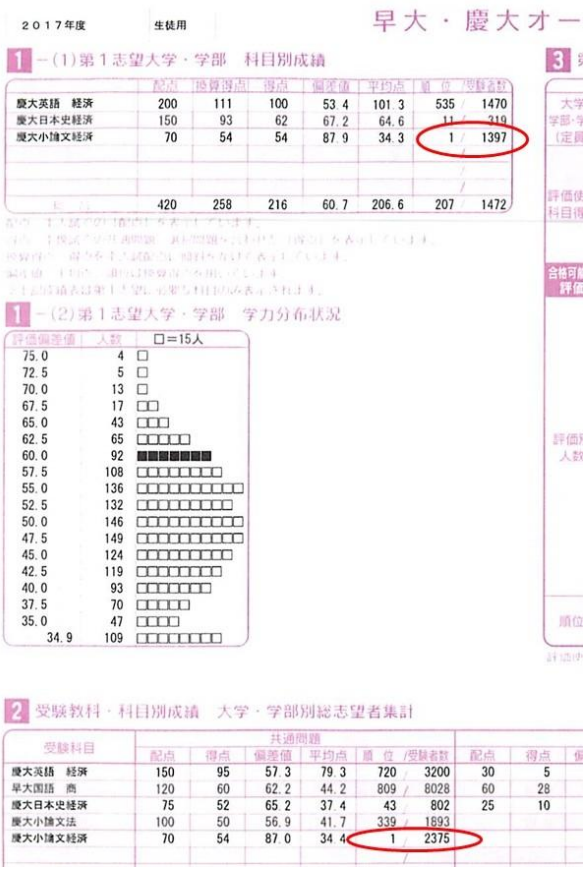
	得点	人数	□=2人
A	286～	10	□□■■■
			□□
	274～	8	□□
			□□□□
B	262～	9	□
			□□
	250～	16	□□□□□□
			□□□□□□
C	241～	27	□□□□□□□□
			□□□□□□□
	231～	32	□□□□□□□□□□
			□□□□□□□□□□
	221～	36	□□□□□□□□□□
D			□□□□□□
	221	401	□□□□□□□□□□
	未満		

順位	第1志望者	総志望者
	8 位	9 位
	326 人中	539 人中

評価使用科目得点：当該大学・学部・学科に必要

2 受験教科・科目別成績　大学・学部別総志望者集計

受験科目	共通問題 配点	得点	偏差値	平均点	順位	/受験者数	選択問題 配点	得点	偏差値	平均点	順位	/受験者数
慶大英語　総合	200	126	56.5	108.1	93	370					/	
慶大小論文総合	100	80	73.5	43.5	1	503					/	



2017年度　生徒用　早大・慶大オー

1 －(1)第1志望大学・学部　科目別成績

	配点	換算得点	得点	偏差値	平均点	順位	受験者数
慶大英語　経済	200	111	100	53.4	101.3	535	1470
慶大日本史経済	150	93	62	67.2	64.6	11	319
慶大小論文経済	70	54	54	87.9	34.3	1	1397
総合	420	258	216	60.7	206.6	207	1472

1 －(2)第1志望大学・学部　学力分布状況

評価偏差値	人数	□=15人
75.0	4	□
72.5	5	□
70.0	13	□
67.5	17	□□
65.0	43	□□□
62.5	65	□□□□□
60.0	92	■■■■■■
57.5	108	□□□□□□□□
55.0	136	□□□□□□□□□□□
52.5	132	□□□□□□□□□
50.0	146	□□□□□□□□□□□
47.5	149	□□□□□□□□□□□
45.0	124	□□□□□□□□□□
42.5	119	□□□□□□□□□
40.0	93	□□□□□□□
37.5	70	□□□□□
35.0	47	□□□□
34.9	109	□□□□□□□□

2 受験教科・科目別成績　大学・学部別総志望者集計

受験科目	共通問題 配点	得点	偏差値	平均点	順位	受験者数	配点	得点	偏
慶大英語　経済	150	95	57.3	79.3	720	3200	30	5	
早大国語　商	120	60	62.2	44.2	809	8028	60	28	
慶大日本史経済	75	52	65.2	37.4	43	802	25	10	
慶大小論文法	100	50	56.9	41.7	339	1893			
慶大小論文経済	70	54	87.0	34.4	1	2375			

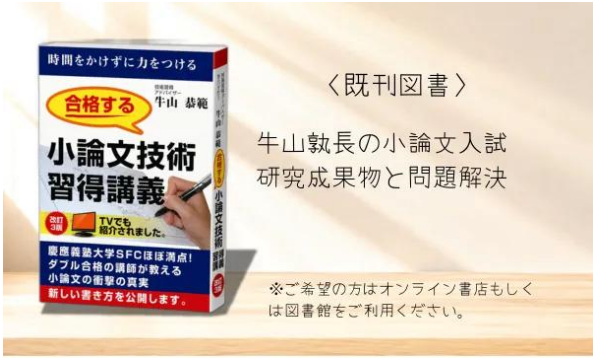
3 年連続で論文成績模試日本一の報告をもらう。論文を指導し、偏差値 87.9 へ上昇などの

事例がある。全国１位、２位、４位、６位など、上位への引き上げ実績多数。

牛山執筆既刊図書のご案内



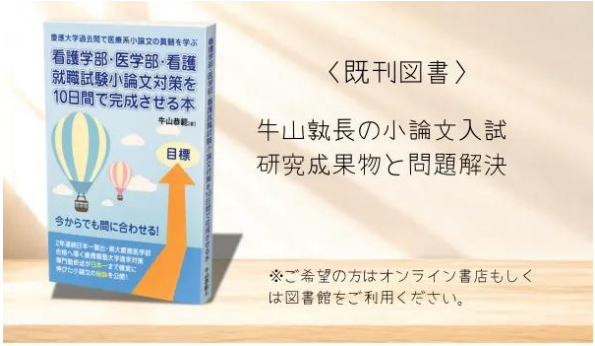
小論文の書き方・考え方を解説した書籍。〈説明〉従来の小論文の書籍は、肝心の考え方についてほとんど解説がありませんでした。小論文試験は、考えた内容を書く試験であり、単に書く試験ではありません。ところが、正しく考える方法は、一般的にあまり知られていません。そこでその考える点を詳しく掘り下げて解説しています。



小論文の技術解説書。



小論文試験が難関で知られる慶應義塾大学 SFC 対策本。



医療系小論文対策の書籍。

〈説明〉

医療系特有の小論文事情を解説した書籍。看護師の専門学校で小論文の外部講師を務めていた牛山が医療系小論文を解説しました。



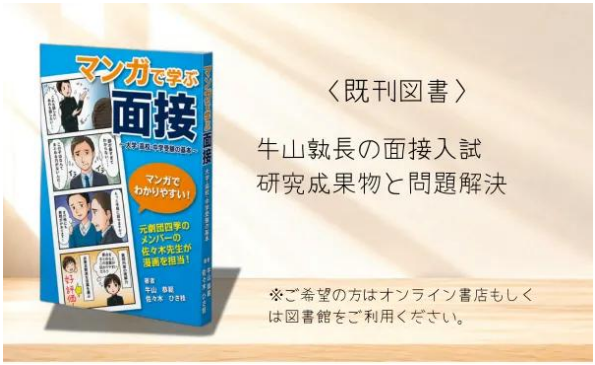
慶應大学の小論文対策本。



小論文の解法を体系化した書籍。また、牛山流の解法テクニックを紹介した。

〈説明〉

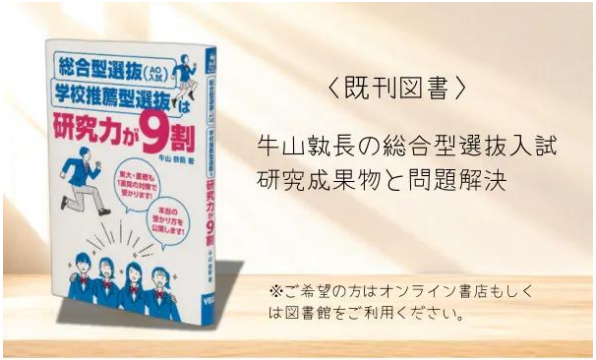
理解度は受験生によって異なります。理解する難易度が高い内容もあれば低い内容もあります。本書は東大・京大など、トップスクールの受験生を対象としているため、すべての人が簡単に理解できるわけではないかもしれません。また、分かりやすさは一般的に罠でもあります。分かりやすいだけで点数が下がる指導はたくさんあります。



漫画であるために分かりやすい・イメージしやすい面接対策本。



受験戦略提案書。慶應大学を滑り止めとして、上位国立大学を効果的にねらう受験方法アプローチを紹介。



いわゆる総合型選抜についての事情を紹介する書籍。この書籍の方法により、国立大学医学部学士編入成功などの実績もある。 専門家の教員であれば、自著で授業ができます。自著はその領域を専門家として研究してきたひとつの証拠です。その領域の研究成果が書籍になっているとご理解ください。

執筆論文

1）倫理経営の効果発生条 件：クレド経営に注目した GTA による「倫理の業 績向上プロセス」の分析
2）長期的に見てどの倫理要 素が高度成長率企業を生み出すのか（査読あり）
3）人工知能にインプットす るべき倫理的行動目標の 優先順位に関する提言
（査読あり）
4）Extraction of the Conditions for Generating Effects of Ethical Management（査読あり）
5）“ INTEGRITY STRATEGIES ” Derived

from the Perspective of Substantive, Logical and Three-Dimensional Thinking（査読あり）
6）我が国において知的財産 発のイノベーションがなぜ起こらないのか.（査読あり）
7）経営倫理論の研究上の問 題点である理解のゆらぎ とその問題を克服する西洋・東洋価値体系統合モデル（査読あり）
8）経営倫理の実践から生じたストコーマ理論を土台とした研究・実践同時履行と相互作用効果理論（査読あり）
9）The Influence of Group Philosophy Dissemination Rates on the Dissemination of Management Philosophy

メディア活動

1）『慶應大学に我が子を確実に合格させる教育法』プレジデント FamilyClub 様（メディア掲載）
第 1 回　⇒「従来の教育法では慶應に益々合格しにくくなる」

第２回　⇒「慶應大学合格に必要な要素と中核」
第３回　⇒「慶應大学合格に有効な受験対策（前編）」
第４回　⇒「慶應大学合格に有効な受験対策（後編）」～「受け身の学習」から「攻めの学習」に変化させる～
第５回　⇒「慶應小論文対策で失敗しないための根本的対策」
第６回　⇒「信頼関係と素直な心で慶應受験に強くなる」
スピンオフ編　⇒今からでも時間がなくても国立大学、慶應大学に我が子を合格させる方法
スピンオフ編　⇒逆転合格を可能にする慶應ＳＦＣ小論文対策＜前編＞
スピンオフ編　⇒逆転合格を可能にする慶應ＳＦＣ小論文対策＜後編＞
スピンオフ編　⇒【英語】我が子を慶應大学に合格させる英語教育法
スピンオフ編　⇒指導品質を高める「業界初の100％オンライン小論文添削システム」

スピンオフ編　⇒志望校に合格しやすい「小論文添削サービス」選びの注意点
スピンオフ編　⇒慶應 SFC の小論文対策 4 つの秘訣合格法
スピンオフ編　⇒全国 1 位連続輩出講師が教える「小論文の型」と、慶應小論文対策のオススメ参考書
スピンオフ編　⇒医学部と看護学部の受験を成功させる小論文対策
スピンオフ編　⇒（第一回）～勉強しなくても受かる！？～慶應義塾大学法学部 FIT 入試対策のコツと勘所
スピンオフ編　⇒（第二回）～慶應義塾大学法学部 FIT 入試対策に学ぶ～合否を決める「志望理由書の書き方」
スピンオフ編　⇒（第三回）～慶應義塾大学法学部 FIT 入試対策に学ぶ～合格しやすい自己推薦書の書き方と勘所
スピンオフ編　⇒（第四回）～勉強しなくても慶應に受かる！？～ 慶應義塾大学法学部 FIT 入試 A 方式の対策に関するコツと勘所

スピンオフ編　⇒（第五回）～勉強しなくても慶應に受かる！？～ 慶應義塾大学法学部 FIT 入試 B 方式の対策に関するコツと勘所
スピンオフ編　⇒（第一回）慶應 SFC の AO 入試対策の要諦は、「自由にとんがり、この子ならできるかもと思わせること」
スピンオフ編　⇒（第二回）慶應大学の AO 入試の志望理由書では、「雰囲気」を重視した内容を避けることが大切
スピンオフ編　⇒（第三回）慶應大学の AO 入試の受かる自己アピールの書き方
スピンオフ編　⇒（第四回）慶應大学の AO 入試の「自由記述・学習計画のコツと勘所」
スピンオフ編　⇒（第五回）受かる「面接対策」・「面接練習」
スピンオフ編　⇒（第六回）AO 入試も精神的にコミットメントできるかどうかで最後は合否が決まる

2）読売新聞（全国版）学ぼうのコーナーにて 8 回掲載（週間企画）

3）京都放送　ＴＶ番組ポジぽじたまご　会社紹介　平成２３年１０月７日
4)京都放送　ＴＶ番組ポジぽじたまご 平成２３年１１月４日放送
5)産経関西　２０年前とは変わった受験事情　平成２３年１２月９日
6)産経関西　スキルアップコンサルタントが薦める新年対策本　平成２３年１２月２１日
7)ＴＶ番組ラボ＋　執筆書籍・会社紹介
8)経済リポート　2012 年 10 月 10 日　1425 号
9)経済リポート　2012 年 11 月 20 日 1429 号

プライベートの紹介





うさぎさんが写っている写真をクリックするとご覧いただけます。

教育理念

当社では、生徒の満足と生徒の幸せの二つを同時に満たすことを教育目標としています。生徒の満足とは、例えば短時間で学ぶことができる、パワハラ・モラハラを受けない・認めてもらえるということです。一方で生徒の幸せとは、合格するということです。このように当たり前に思われることですが、塾業界では、生徒の幸せを重視しない教育はよく見受けられま

す。その代表例は、小論文に関しては、あまり根拠のない低品質な指導を行ってしまうことや、根拠のない合格理論です。例えばたくさん練習すれば合格するという理論について、生徒は大変満足します（面倒な座学が無く、自分の優秀さだけを感じたまま受験会場まで行くことができる）が、現実には受かりにくい理論です。あるいは、この型にはめれば合格するという理論も横行していますが、現実には、『「いい文章」ってなんだ？ 入試作文・小論文の思想』（ちくま書房）という書籍で、石川教授が述べているように、この手の型に大学教員は辟易としています。例えば数学で 20 点しか取れない人が、数学で 90 点取れる人に対して「あなたの数学の勉強方法はダメだと思う。」と述べたとして、この批判批評に意味があるでしょうか。おそらくほとんど意味はないでしょう。生徒の幸せを考えるとは、このように市場やオンライン上に氾濫する根拠のない合格理論で、いい加減に対処しないことを意味します。また、現代的には人工知能の普及によって、教育の品

質は塾長の品質となりました。その理由は塾長が予備校・塾の全カリキュラムを指示するからです。従って塾長が小論文で点数を取ることができなければ、その予備校・塾の指導品質は大きく下がってしまうことになるでしょう。当塾の教育理念とは単なる掛け声ではなく、一生涯勉強と腹をくくりきった塾長牛山が、今も現在進行形で学び続け、世界のトップジャーナルに論文を投稿する中で、論文技術を向上させ、自分が苦しみ生徒の幸せを実現するという気概に現れています。

〈価格〉

慶應クラス：月額 35,000 円
慶應 SFC 特化クラス：月額 56600 円
マンツーマンコース：月額 110,000 円

今からでも間に合わせるコースはこちらをご確

認ください。
http://www.skilladviser.com/base/sixyouron/sr-2/keio-imekarademo/keio-imakarademo.html

〈お申込み〉
お申込み方法は簡単です。こちらのメールアドレスまで、ご希望のコース名を件名として、ご連絡ください。

digisistem.skilladviser@gmail.com
※氏名・住所・電話番号をお書きください。




ある出版社の編集者は、こう言った。
『私たちは、
受験生の小論文の点数が
上がることなんてどうでもいいです。
本が売れさえすればいいんです。
編集の思考法総論
出版の未来を考える
現代社会とメディア


1
私は新しい本の出版交渉である大手出版社を訪れた。
○○出版本社
2
牛山さんはどんな本を書けますか？
3
本当に点数が上がる本を書くことができます。
4
私たちは本が売れさえすればいいんです。
5
受験生の点数が上がるかどうかなんてどうでもいい。
そんなに本当のことを書きたいなら大学の先生になって5000円くらいする本を書けばいいじゃないですか。ハッハッハ。
6
私は耳を疑った

7

私は本物の
小論文サービスを
届けるために
自分を鍛え直そうと
決めた。

8

私は慶應SFCという学部に
一発で総合・環境の両学部に
合格していた。



慶應SFCは当時8人に一人
程度が合格でほとんど合格
しない。両方合格する人は
さらに少なかった。

9

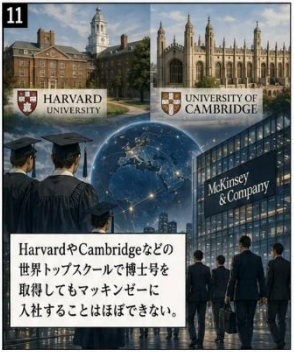
それでも大学院進学を
決めたのはもっと
鍛えられると
分かっていたからだ。

10

私が進学した大学院は
大前先生が学長を
務める大学院だった。



11



HarvardやCambridgeなどの
世界トップスクールで博士号を
取得してもマッキンゼーに
入社することはほぼできない。

12

私が学んだ
大前研一先生の
大学院はマッキンゼーの
OBで占められていた。



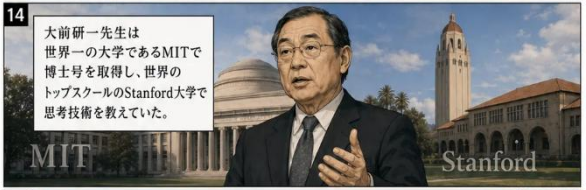
13

マッキンゼー社の
優れた思考技術を
体系的に学んだ。



14

大前研一先生は
世界一の大学であるMITで
博士号を取得し、世界の
トップスクールのStanford大学で
思考技術を教えていた。



15

私は工学系では
世界トップスクールである
東京科学大学
（東京医科歯科大と
東京工業大学の統合校）に
進学して学術のトレーニングを受け単位をすべて取得した。

世界に通用する
学術のイロハを
叩き込まれた
のである



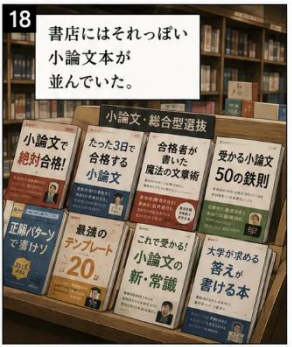
16

当時大前先生の
大学で学び
MBAを取得していた



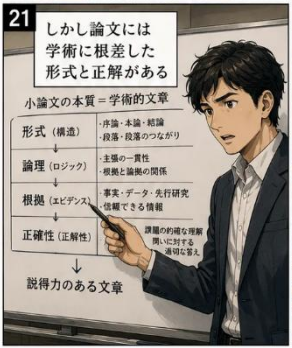
だから本当に
点数が上がる
小論文の本を
書けると
答えたのだ。

17
だが返ってきたのは
利益優先の
言葉だった。

18
書店にはそれっぽい
小論文本が
並んでいた。


19
受験生が信じてしまいそうな
理論があふれていた。


20
事情をしらない受験生は
情報の洪水に
飲み込まれていく。


21
しかし論文には
学術に根差した
形式と正解がある


22
売るためにありもしない
理論が作られていく。


23

多くの教育現場では、
本物の思考技術が
教えられていない。

24

AIはネット上の
最大公約数を返す。
誤った情報も
増幅される。

これが真実だ
断定的な意見！
○○は正しい！
データによると…
それは違う！
常識は嘘だ
信じるな！
正反対の意見
本当は
こうだよ
実は…
専門家の意見
みんなそう言ってる
AI

25

小論文で未来を切り拓く
① 問題の本質を見抜くこと
② 論理の筋道を立てること
③ 自分の言葉で伝えること
知識より、考える力。
それが合格をつくる。

騙される受験生を、
一人でも救いたい。

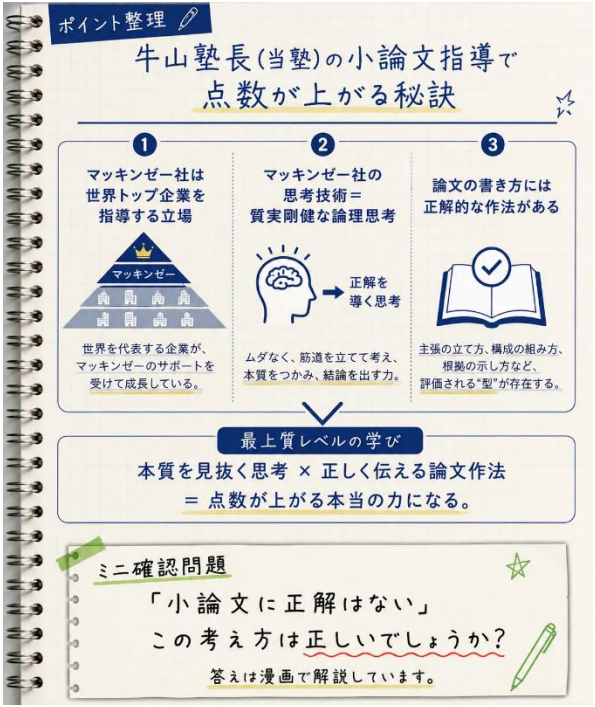
26

その結果、
全国模試1位の報告を
3年連続で
受けるようになった。

全国模試
1位
3年連続達成！
全国模試
1位
3年連続達成！

27

正規の上質な指導は、
結果を変える。
だから私は、
本物の小論文指導を
届け続ける。



追伸

英語の成績を引き上げることも、小論文の成績

を引き上げることも、暗記科目や数学の成績を引き上げることも非常に簡単です。なぜ多くの人は、成果の上がらない勉強をやり、時間を無駄にして不合格確率を引き上げてしまうのでしょうか。答えは簡単で、間違った理論をいとも簡単に信じてしまったからなのです。例えば合格者が出ていれば正しいのでは？というような論理に飛躍のある考え方はその典型です。きちんとした対策、質が高い対策で、確実に成果を出していきましょう。